

令和2年9月24日

プレスリリース  
報道関係者各位

北翔大学北方圏学術情報センター「健康」研究グループ新型コロナウイルス研究班  
研究代表者 飯田 昭人

## 新型コロナウイルス感染拡大が大学生に及ぼす影響に関する調査結果（速報版）

### 1. はじめに

令和2年7月より、北海道内の大学生（短期大学生、大学院生を含む）に新型コロナウイルスが及ぼす影響に関する質問紙調査を実施しました（現在も継続中）。

本プレスリリースでは、8月末までの724名のデータを分析した速報版になります。なお、本研究は引き続き9月末までに900～1000名程度のデータ収集を目指し、分析を予定しています。

### 2. 調査結果（抜粋）

#### 2-1 現在の居住形態（注1）

内訳として、「元々実家に住んでいる」が52%、「今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている」が34%、「一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる」が10%でした。

新型コロナウイルス発生後、大学生の10%が一人暮らしから実家に戻ってオンライン講義を受講していたことがわかります。

#### 2-2 新型コロナウイルス発生前後の経済状況の認知（注2）

新型コロナウイルス発生後の自身の経済状況の認知として、経済的困り群（「経済的に困っている」「経済的にかなり困っている」）が26%でした。ちなみに経済的ゆとり群（「経済的にかなりゆとりがある」「経済的にまあゆとりがある」）が26%、経済的ゆとりなし・困りなし群（「経済的にゆとりはないが困ってはいない」）は48%でした。新型コロナウイルス発生前後を比較すると、経済的困り群（「経済的に困っている」「経済的にかなり困っている」）が2.6倍増加しています。

また、分析の結果、新型コロナウイルス発生前と発生後の経済的困り感には統計的に意味のある差が確認されました。すなわち、新型コロナウイルス発生後のほうが発生前よりも経済的困り感の認知が高まったと解釈できます。

#### 2-3 オンライン講義の負担感（注3）

オンライン講義について、負担ではない群（「まったく負担ではない」「あまり負担ではない」）33%、負担群（「すこし負担である」「とても負担である」）48.5%となりました。

つまり、オンライン講義の負担感については二極化していることが推察されます。個々の大学生の置かれた状況（授業形態、オンラインに関する知識、デジタル機器操作の熟練度、遠隔授業による個別学習形態への親和性、居住形態や経済的状況の認知、自身の心理的特徴など）によって負担感の受け止め方が異なることが推察されます。

#### 2-4 精神的健康度について（注4・注5）

K6という精神的健康度の尺度を用いて実施しました。何らかの精神疾患の確率が高い15点以上が全体の11.8%であり、先行研究の結果を参照する限り、本結果は高いと言えます。

また、GAD-7という不安評価尺度を用いて実施したところ、不安感が高い10点以上が全体の16.5%であり、先行研究の知見を参照する限り、本結果は高いと言えます。

コロナ禍においては、大学生の精神的健康度が低下していると言えるでしょう。

#### 2-5 孤立感について（注6）

孤立感尺度短縮版を用いて実施しました。先行研究の知見を参照する限り、本結果は低いと言えます。

先行研究よりも孤立感得点が低かった背景として、自宅等で一人オンライン講義を受講しているものの、その状況はすべての大学生に共通するものであり、「自分一人だけではない」という受け止め方が「孤立感」を高めていないのかもしれない。

### 3. 本研究結果に関するお願いならびにお問い合わせなどにつきまして

もし、本研究結果を報道等していただける場合は、北翔大学北方圏学術情報センター「健康」研究グループ新型コロナウイルス研究班で実施したということがわかるように明記していただきたくお願い申し上げます（表記の仕方はお任せいたします）。

なお、冒頭でもお伝えしておりますが、本調査は現在も継続中で9月末まで質問紙調査を実施しております。最終的には9月末までの調査協力者を対象に分析していくとともに、来年1~2月にも同じ内容の調査を行い、比較検討していく予定です。

最後にお問い合わせにつきましては、下記研究代表者までお願いいたします。

#### 研究代表者

飯田 昭人（北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科准教授，公認心理師/臨床心理士）

011-386-8011（代） [iida@hokusho-u.ac.jp](mailto:iida@hokusho-u.ac.jp)

#### 共同研究者

水野 君平（北海道教育大学旭川校）

入江 智也（北翔大学）

西村 貴之（北翔大学）

川崎 直樹（日本女子大学）

斉藤 美香（札幌学院大学）

注 1) 以下の本研究データを参照しています。

新型コロナウイルス発生後の居住形態	%
元々実家に住んでいる	52.0
一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる	10.0
今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている	34.0
シェアハウス、親せき宅などで家族以外の他人と暮らしている	1.0
その他	3.0

注 2) 以下の本研究データを参照しています。

新型コロナウイルス発生前の自身の 経済状況の認知	%
経済的にかなりゆとりがある	5.0
経済的にまあゆとりがある	34.0
経済的にゆとりはないが 困ってはいない	51.0
経済的に困っている	8.0
経済的にかなり困っている	2.0

新型コロナウイルス発生後の自身の 経済状況の認知	%
経済的にかなりゆとりがある	4.0
経済的にまあゆとりがある	22.0
経済的にゆとりはないが 困ってはいない	48.0
経済的に困っている	20.0
経済的にかなり困っている	6.0

新型コロナウイルス発生前の経済状況の認知 平均 ( $M$ ) 2.68, 標準偏差 ( $SD$ ) 0.78

新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知 平均 ( $M$ ) 3.04, 標準偏差 ( $SD$ ) 0.90

新型コロナウイルス発生前と発生後の経済的困り感に差があるかどうかについて、対応のあるサンプルの  $t$  検定を行ったところ有意差が見られた ( $t=12.706$ ,  $df=695$ ,  $p<.001$ )。

注 3) 以下の本研究データを参照しています。

オンライン講義の負担感	%
まったく負担ではない	9.5
あまり負担ではない	23.5
どちらともいえない	18.5
すこし負担である	34.0
とても負担である	14.5

注 4) 以下の本研究データを参照しています。

K6 平均 ( $M$ ) 6.70, 標準偏差 ( $SD$ ) 5.84

15 点以上 11.8%

注 5) 以下の本研究データを参照しています。

GAD-7 平均 ( $M$ ) 4.85, 標準偏差 ( $SD$ ) 4.84

10 点以上 16.5%

注 6) 以下の本研究データを参照しています。

孤立感尺度短縮版 平均 ( $M$ ) 4.72, 標準偏差 ( $SD$ ) 1.84